

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800204		
法人名	有限会社 グループホーム 渋川		
事業所名	グループホーム 渋川の家		
所在地	群馬県 渋川市 金井 125-4		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様一人一人の残存能力を尊重し、ご自分で出来るところは自分のペースでやっていただき、できること、やらないこと、できないことを把握し、できないところをお手伝いさせていただきます。利用者様に対して待つことの大切さを認識し、できるかぎりの自己決定権を尊重した自立支援のケアに努め、一人一人が理念である、「明るく、楽しく、仲良く」時がゆっくりと過ぎて暮らせるよう日々務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者・管理者は、運営において人員配置基準を上回る職員を配置し介護体制の強化を図り、入居者の暮らしを支援している。また、事業所は地域の一員として積極的な交流に努め、近年ではお祭りなどの地域行事への参加の際には、地域住民として入居者への配慮のある席の準備をいただき、一緒に楽しみ、馴染みの関係を築いている。入居者の高齢化に伴い、身体状況の変化時や看取りについては職員間で話し合い、意見交換を行い、地域の医療機関や訪問看護事業所との連携体制を構築するなど、意欲的な取り組みを行っている。災害対策においても、毎月職員が交替で入居者と共に避難訓練を行ない、防災体制の強化に力を注ぎ、入居者・家族の安心した暮らしの支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さ、掘り下げ作業をケース会議内で実施。また掘り下げた内容にもどうすれば実行できるかを話し合い結果をご家族や来賓者にも見えるように掲示している。	理念は事業所内に掲示し、職員のアンケートや話し合いを行ない、共有と具現化を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年初めの道祖神祭りの参加や地区のお祭りにも参加し交流を深めている。職員の参加ではあるが年二回の道路清掃にも参加している。また年4回の広報も自治会長を通じ回覧板で廻してもらっている。	積極的な地域の行事や道路清掃などへの参加を行ったり、回覧板で事業所の広報誌を地域へ廻したりして、近年では地域の行事への参加時は入居者の席を用意して頂く等、地域住民と馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の理解、介護保険についてなど話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防訓練にも立ち会ってもらい、夜勤一人体制での体制を理解してもらい、自治会3役の方たちには火災通報装置の連絡網に加わっていただいたり、役割を話し合った。	会議開催時は、家族が出席し易いように日程調整の配慮を行なっている。防災関係においては、火災通報装置の連絡網に自治会3役の方が加わっていただき、消防訓練に参加していただく等、地域との協力体制を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の更新の時や運営推進会議の時など担当の市の職員の方から情報や相談をしている。またメールなどあった場合全職員に回覧、感染症などのメールについてはケース会議内で勉強会を行った。	市の担当者には、運営推進会議メンバーとして参加していただき、日常的な連絡調整や協議が行われている。また、Eメールで市から様々な情報提供があるなど、双方向のコミュニケーションが図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、1名の方が身体拘束の対象となっている。車椅子からずれ落ち防止に拘束帯を使用するものとなっているが、なるべく拘束しないようにイスへ座ってもらったり防止に努めている。	事業所周辺の交通状況等により玄関の施錠を行っていたが、定期的に関錠時間を設ける等、改善を図っている。車椅子からの転倒予防のための拘束対象者についても、身体状況を見ながら椅子に座る時間を設ける等の工夫を行ない、拘束時間の短縮に努めている。	引き続き、身体拘束をしないケアに向けた努力を継続することに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネ、管理者、事務長が随時チェックを行っている。また前回の外部評価の内容で一人一人の尊重とプライバシーについて研修するよう話があり、その研修時において、言葉による虐待もある、拘束も虐待であることを機に触れた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	双方に該当する方が入居されており、月1回ではあるが、生活実態と健康状況を報告、相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、文章にして報告を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情」の受付をしているが、なかなか出してもらえないため、ご家族が職員に対し要望があった場合、要望書を作り、全職員情報を回覧しケース会議で話し合った結果をまたご家族様に報告している。また利用者様の訴えがあった場合にも要望書を作成している。その際にもご家族や後見人にも伝えている	入居者・家族が意見を言い易いように聞き取りを行ない、全職員で対策を検討し、その結果を報告するなど、丁寧な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議の中で話す機会を設けている。	毎月1回、全職員参加による会議を行ない、職員が意見を言い易いように管理者が配慮している。その結果、活発な意見交換が行われ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	地域密着型連絡協議会における勉強会などには積極的に参加している。同じグループホームでの悩みなど、共通理解することでやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員より行きたい研修があれば、なるべく参加ができるように勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会における交換研修があれば参加していきたいと思っている。また近くにある小規模多機能の施設の勉強会にもお招きいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人と面接を行っている。そのときにはご家族様も同席をお願いし、当ホームでやりたいこと、希望などを聞いている。可能であれば事前に当ホームへの見学も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべく家族の要望を可能な限り実現しようと努めている。また要望書のシステムも活用していきたいと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて状況判断を行い、必要なサービスを受ける事ができるよう支援している。また時に応じてご家族様のご協力も得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶やお礼を大切に、個々の状態に応じて出来る事をしてもらい生活することで信頼関係を深めている。また声かけを大切に、利用者が抱える不安や孤独感を分かち合うようなケアを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には本人の状況を説明し、家族の意見も伺い一緒に考えていただけるよう務めている。4月の花見の行事にも2名のご家族様の参加が叶った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回絵手紙を下さるボランティアの方をお呼びしたり、利用者様の同級生が訪ねてきたときも再度遊びにきていただくようお願いしたり、お盆のときに家に外泊するなどしている。また職員同行で利用者の家に訪問したりもしている。	家族と一緒に外泊したり、職員が付き添い、入居前に住んでいた家や出身地を訪ねたりしている。同級生などの面会時には、引き続きの面会を依頼するなど、馴染みの関係の継続を支援している。また、運営推進会議時は入居者と家族が参加できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他の利用者の面倒を見てくださったりしていることもある。安全面を考慮し見守りをしている。またお風呂の入浴中でも他の利用者のことを気遣い次の人いれてあげてなど配慮がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり退居した利用者様の家族に必要なに応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	2月に利用者様が伊香保の水沢観音で豆まきの手伝いをすると強い意向あり。前日に職員同行で水沢観音まで行った。お坊さんに話を聴き以前お手伝いをしたことがあるが、今はお手伝いはやっていない旨を説明して納得された。また他の利用者様もケアマネ同行で趣味のゴルフをされた。	訴えのある入居者については、その思いの実現に向けて可能な限り対応している。思いや意向の把握が困難な場合には、家族に相談したり、本人の生活歴から思いを推測したりして、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記にある通りや、できるかぎりではあるが馴染みの生活を取り入れている。これからもご家族様にも協力を得て取り入れていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のできたことの発見や気づきなどを申し送りノートを活用、全職員に捺印してもらっている。また随時、ケース会議にて検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネより全利用者に対し月1回モニタリングに対してのカンファレンスを実施している。またその内容を回覧し捺印をもらっている。	日々のケア記録をもとに、週1回のカンファレンスや毎月のモニタリングにより介護支援専門員との情報共有が適切に行われ、計画に沿った個別ケアの実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや業務日誌は必ず全職員に捺印をもらっている。また大切なことは申し送りで再度確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急搬送時の病院との提携や訪問看護の連携で救急時、健康面をバックアップしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアマネと利用者、また利用者の知り合いとで趣味のゴルフを行った。また秋に予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のかかりつけ医による往診は隔週1回、別のかかりつけ医となっている利用者様は月1~2回受診へ行っている。また家族の状況により職員が対応することもある。	受診は、本人・家族の馴染みのかかりつけ医を支援し、家族の都合がつかない場合は職員で対応し、家族に報告している。協力医による往診は、月2回行われている。また、複数の医療機関と連携し、往診・入院等の適切な医療が受けられるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護が訪問している。また緊急時にも訪問してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にすぐ対応できるように緊急ファイルを作っている。薬情や情報提供書、保険書のコピーなどファイルに綴じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護を2名行っている。9月のケース会議にて勉強会を開く予定。また8月28日に職員、訪看、ご家族とで会議を開く予定。	身体状況の変化時等においては、入居者・家族の意向を十分に聴き取り、職員間での協議を重ね、地域の医療機関や訪問看護事業所との連携体制を構築するなど、意欲的に取り組んでいる。	入居者の重度化や終末期ケアの実践にかかり、喀痰吸引等の医療的ケアについてどのように対処するか、継続的に検討することに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定期的に見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回職員を変えて夜間想定避難訓練を実施している。そこでの反省を生かした取り組みが、消防署立ち会いの防災訓練で評価された。	災害時においては速やかに対応できるよう、月に1回、職員の交替により避難訓練を実施している。その結果、職員の対応能力が向上し、入居者の防災意識も高まっており、消防署立会いの防災訓練時に評価を得ている。また、自治会3名の方が非常災害時の連絡網に加わっていただく等、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前回の外部評価に対しての目標で勉強会開催と掲げ、施設内研修を開催。居室へ入るときのノックやトイレでの利用者へ羞恥心の配慮、一人一人を尊重するに、自己決定権の必要性、またどうすれば実行できるかを学んだ。	代表者・管理者は、入居者尊重の姿勢を重視しており、事業所内研修の実施により、職員は一人ひとりを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記にある通り、自己決定が自立支援に関わってくる事学び、実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りではあるが、入浴の希望や夜更かしなど、本人を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に2ヶ月に1回散髪をしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と一緒に食事をしているが、食事介助をする人数が増えてきているため、その日の全職員と一緒に食事ができるわけではない。食器拭きやお盆拭きなど、できる利用者に手伝ってもらっている。	入居者の重度化により、入居者が無理のない程度に、下膳・食器拭き等の能力に応じた役割を担ってもらえるよう支援している。職員も食事介助の傍ら、交代で入居者と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が低下している時は、その利用者の嗜好品を本人、ご家族に聞き提供している。毎回ではないが、利用者の嗜好品をおやつに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者にもよるが昼夜オムツの利用者も一日一回トイレに座り、排便を促している。便秘も毎回ではないが出てきた。	トイレは、すべての居室から3メートル以内に配置されている。日中は、要介護者もトイレでの排泄を支援している。また、重度化の方でも、1日1回はトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグ、ヨーグルトなど乳製品の提供。ラジオ体操を行っている。それでも便秘してしまう利用者に関しては下剤の服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき週2~3回の入浴を基本としている。限られた範囲ではあるが、入浴時間も考慮している。	早く入りたいなどの希望を受け、入浴の順番を最初にしたり、ゆったりとした入浴時間を考慮したりするなど、できる限りの対応を行い、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くないときは無理に入眠させないよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が薬を服用するまえに、職員同士で薬の日にち、時間、何錠あるかチェックし、服用直前には顔と、名前をチェックし服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケをしたり、塗り絵や編み物など一緒にしている。エプロン、タオルたたみなど、手伝っていただける方にはしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今日は散歩したいなど希望があれば、可能な限り取り組んでいる。また季節などを考慮し行けるときは月1回の行事を外出にしたりと心がけている。	外出の希望を受けたり、また出来る限り散歩を促す対応している。年間を通して、外食・買い物・ドライブ・ピクニック・花見などの外出行事を企画し外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で管理しているが、欲しいものや興味を持ったものなどある場合には、利用者にはお金があることをその都度説明をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合上、勝手に電話はできないが、ご家族から電話が来たときには、たとえ別件でかかってきた場合にも、お願いをし電話で会話をしてもらおうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に職員と入居者の共同作業による干支の貼り絵を飾っている。また廊下には行事でとった写真を貼りだしてある。	共用の居間には、行事の写真や入居者と職員が協働で制作した作品が飾られている。居間から続く広いテラスには、天気の良い日は自由に出られ憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の中には独りを好む利用者もいるので、工夫している。また利用者同士のトラブルもあるので席を離したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはボランティアからくる絵手紙や家族の写真などを飾っている。また本人の好むカレンダーなども貼ってある。	各居室は家財道具の持ち込みは自由であり、個々の希望に応じて、テレビ・ソファーが持ち込まれ、家族の写真・絵手紙が飾られ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない利用者でも見やすい位置に表札を作ったり、トイレもわかりやすく表示してある。また、トイレを聴くという羞恥心を考慮し、トイレ付近に説明しやすいものを飾ってある。		